

千本松大橋



1973/大阪市

大阪市長 大島 靖

ごあいさつ



千本松大橋が本日いよいよ開通の運びとなり、まことに喜びにたえません。

水の都大阪には、古くから数多くの橋がかけられています。港に近い地区では、大型船舶の河川航行のさまたげとなるため架橋は認められず、ながいあいだ無橋状態がつづいていました。

しかしながら、近年の橋梁技術の進歩は目を見はるものがあり、全国各地でも大規模な橋が建設されつつあります。

大阪市でも港湾の整備につれ、千本松大橋をはじめとして港湾地帯に一大橋梁群を建設する計画を進めており、すでに工事をはじめている橋もあります。

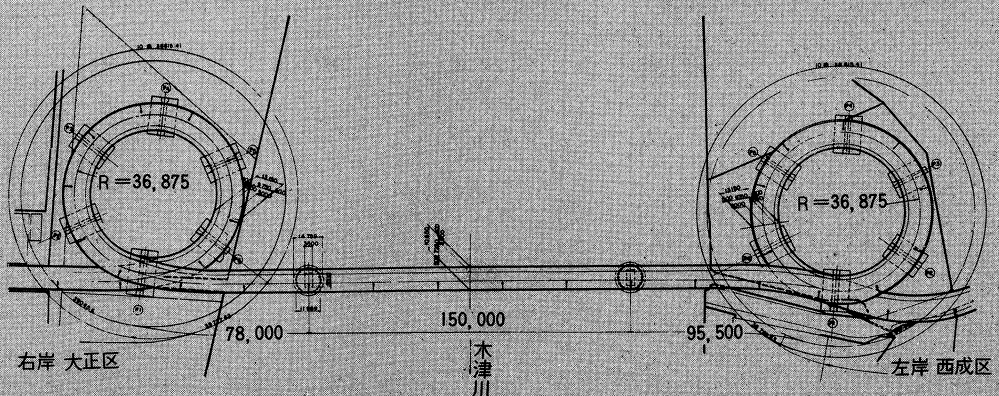
この千本松大橋は、西大阪の臨

海工業地帯と南大阪や市中央部とをつなぐ東西連絡道路の確保のために木津川河口に架設したもので、両岸に2階式のらせん状ランプウエーをもった全国でもめずらしい橋であります。

これが完成により、地区の発展はもとより、市中央部の交通緩和に役立つなど大阪市再開発に資する意義はまことに大きいものと確信いたしております。

ここに、これが建設にあたり、暖かいご指導とご支援を賜りました関係各位ならびに沿道の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、大阪市発展のために、いっそうのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

平面図



■事業の概要

西大阪の臨海・港湾地帯の多くは、大型船舶が出入りするため、これまでながいあいだ橋がかけられず、陸の孤島的狀態を呈している。

ここ木津川においても、東西交通ルートとしては、はるか上流の木津川大橋や大浪橋を利用するしかなく、このことは地域の発展にブレーキをかけ、市中央部の交通事情を悪くする一因にもなっていた。

千本松大橋は、これらの問題をいっしょに解決するものとして建設した橋で、交通上の利便はもちろん、その特異な型式は臨海地に近代的な情趣をも添えている。

路線名 一般府道大阪羽曳野線

道路整備区域 左岸側＝西成区津守町西7～南津守交差点
右岸側＝大正区南恩加島町～大運橋交差点

延長 約2,360m

事業費 約25億円

工期 昭和43年10月から48年10月

■橋梁の概要

3,000トンの船が楽に航行できるよう、桁下高を33m以上とることが必要とされ、この条件を満たすものとして両岸に2階式ラセン状ランプウエーをもったノッポ橋となっている。

架橋位置 東詰＝西成区津守町西7
西詰＝大正区南恩加島町

橋長 主橋梁部 323.5m
(3径間連続鋼床板箱桁)
高架坂路〈ループ〉部
西成区側 465m
大正区側 465m
〈12径間連続曲線合成桁〉

幅員 主橋梁部 車道 7.50m
歩道 2.25m(上流側)
高架坂路部 車道 10.00m
歩道 2.25m

支間 河川中央部 150m
橋梁の高さ 高水面から桁下まで 33m
高水面から橋面まで 37m
橋上灯 蛍光水銀灯 400W 60基

■位置



▶千本松大橋の特色

- ①主橋梁部の中央支間150mは、この型式では日本一
- ②主橋梁部の桁下高33mは、天草1号橋、若戸大橋、西海橋、尾道大橋について日本で5番目のノッポ橋
- ③両岸に、2階式ラセン状ランプウエー(直径74m)を採用したのはわが国でははじめて
12径間465mが連続した曲線桁を使っているのも世界では例がない。
- ④地震対策にも万全
地震のときには、ランプウエーの連続桁と6基の橋脚とが一体となって抵抗するように設計してある

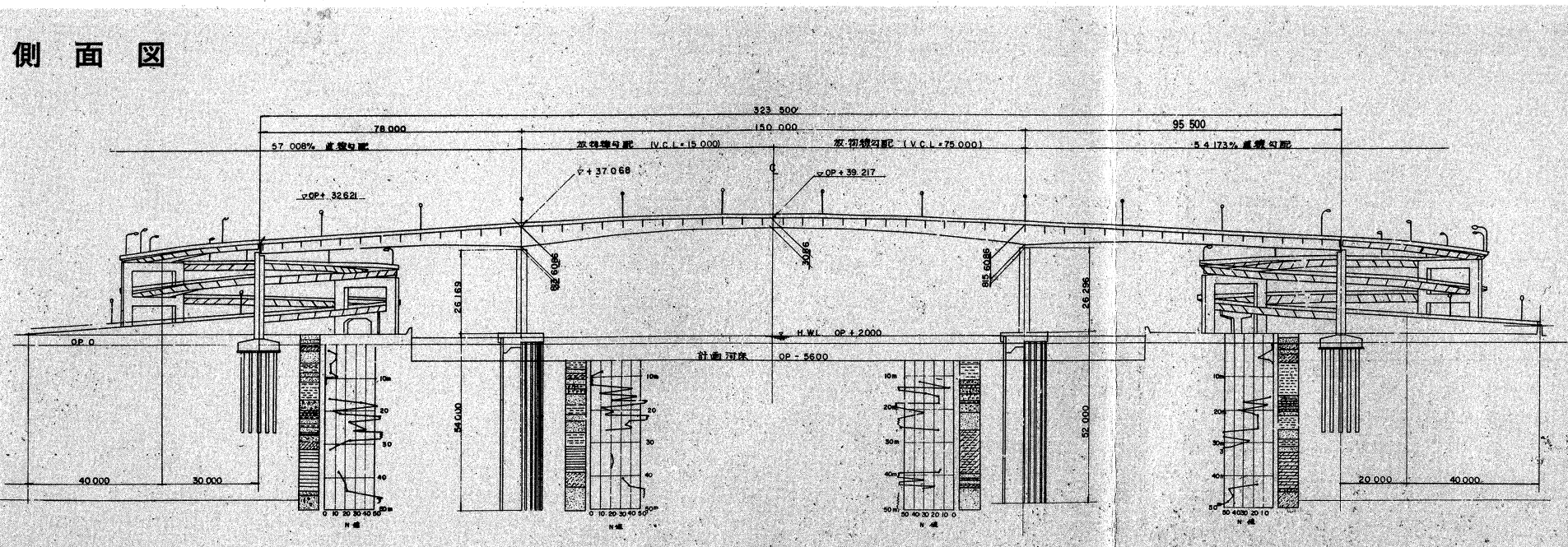
▶無橋地帯解消のために……

大和川・尻無川・安治川・正蓮寺川・新淀川・神崎川などの各下流無橋地帯の道路橋梁整備が進むと、西大阪臨海工業地帯を中心とした阪神臨海工業地帯相互が直結され、物資の交流がスムーズになる。

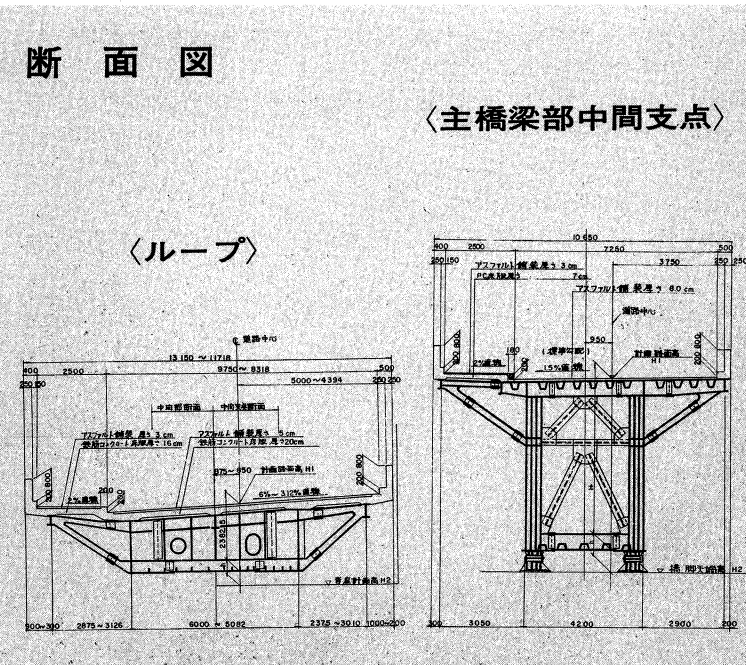
千本松大橋は、無橋地帯解消計画の一つとして地域の発展、都市の再開発のために架設したものである。

大正区と大阪市南部以南の各衛星都市への連絡が容易となることはもちろん、市内中央部、国道26号、大阪臨海線などの交通混雑を緩和し、裏道への通過交通をおさえることによって事故防止にも役立つ。

側面図

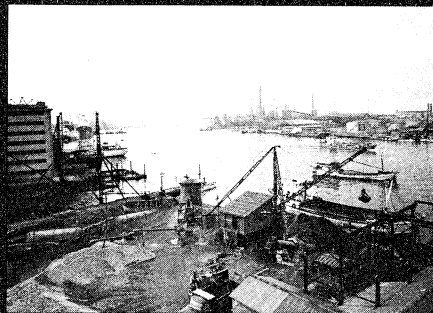


断面図



千本松大橋のできるまで

①



架橋前の木津川河口部
〈下流を望む〉

②



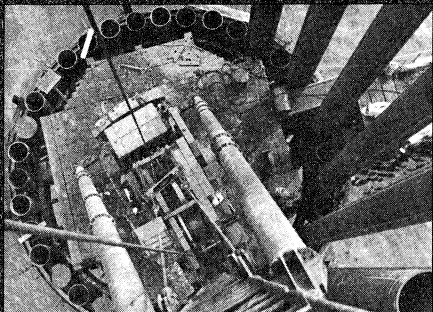
ループ部の
橋脚基礎工

③



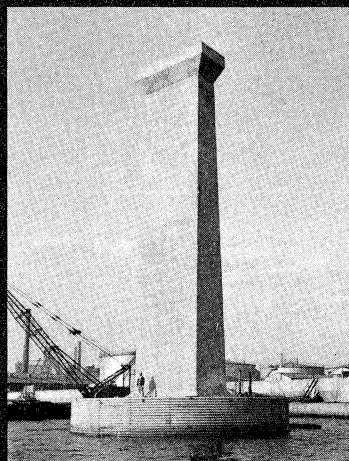
ループ部の
橋脚が完成

④



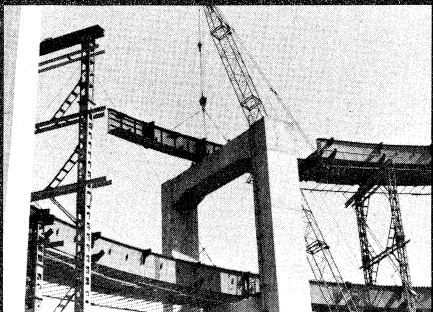
主橋梁部基
礎杭の打込
作業〈水面
から50mの
深さまで〉

⑤



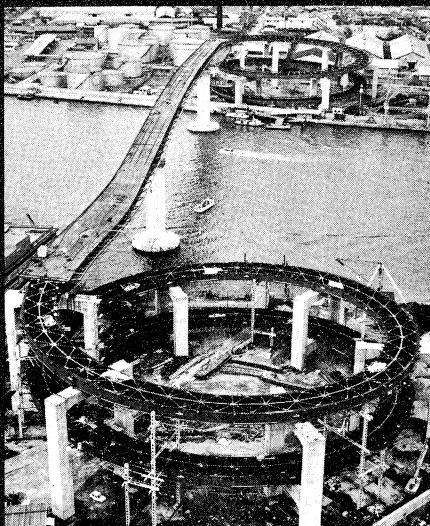
河川内にノ
ッポ橋脚が
完成

⑥



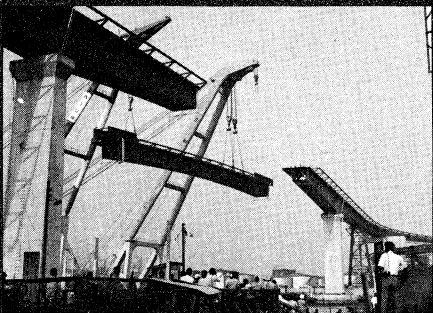
ループ部曲
線桁の架設
工

⑧



西成区側
(手前)と大
正区側が
つながり、
全貌をあら
わした千本
松大橋

⑦



フローチン
グクレーン
による中央
径間の橋桁
架設工